

北上川のヨシ刈り



1月の澄んだ青空の下、石巻市北上町に注ぐ北上川の河口で、冬の風物詩と言われるヨシ刈りが行われた。同市農業委員の佐藤健悦さん(54歳)と母のきよ子さん(75歳)だ。

北上川のヨシ刈りは約70年前、健悦さんの祖父の栄助さんたちが始め、農閑期の収入源としてこの地域に広がったものだ。

ヨシは3mほどに成長し、茅葺屋根の屋根材や土壁の壁材などに使われる。芯がなく空洞になっているため、同じ屋根材のススキなどに比べると腐りにくく、長持ちするとされる。最近ではリンゴ農家等の果樹の受粉を助ける「マメコバチ」の巣筒としての需要が高まっている。

以前は「刈り子」と呼ばれる人たちが手刈りしていて重労働だったが、最近は海外製の機械の導入も進んでいる。健悦さんは草刈り機にオーダーメイドした板金を取り付けて、およそ7ha分のヨシ刈りをする。従来の3～5倍のスピードで労力も大幅にカットされ、大変便利だという。



「3月の育苗が始まるまで稲作農家は冬の収入がない。力仕事ではあるが、農閑期に一定の収入を得ることができる」と健悦さんは語る。冬の作業は12月中旬から3月半ばまで続く。